

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

4. 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係

研究分担者 村山 伸子（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究協力者 堀川 千嘉（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究協力者 三瓶 舞紀子（所属：国立成育医療研究センター社会医学研究部）

研究要旨

2020 年より感染拡大している新型コロナウイルス感染症影響により、緊急事態宣言が発令され、この期間では多くの小中学校等学校が臨時休業のため学校給食は提供されず、児童・生徒は、原則家庭内に限り食事摂取する状況が生じた。家庭内での食事内容は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが関連する。よって本研究は、緊急事態宣言下および緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。調査対象は、全国 8 地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から無作為に各 6～7 自治体抽出した計 50 自治体に居住する小学 5 年生の児童あるいは中学 2 年生の生徒がいる世帯、それぞれ 1500 世帯（各自治体 30 世帯）であった。回答を依頼した、当該世帯の保護者が回答した調査票をもとに、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1 年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルについて、欠損データの無い 1107 名を最終的な分析対象とした。分析は、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。結果、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ 1 日 2 回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い群では、高得点群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なく、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも 1 日 2 回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点に

関わらず、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群で割合が少ないことが明らかとなった。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）が2020年より感染拡大している。この影響により、緊急事態宣言が発令され、緊急事態措置期間である2020年4月16日から5月13日にかけては、ほとんどの都道府県で小中学校等の文教施設を含む施設の使用制限等の協力要請がなされ、多くの小中学校が臨時休業となった。臨時休業となった学校では学校給食は提供されず、児童・生徒は、この期間において原則家庭内で食事摂取することになった。学校給食は、子どもの栄養摂取状況や成長に寄与する重要な食事であり、システムである。よって、緊急事態宣言下という学校給食が提供されない期間においては、家庭内での食事に1日の食品群・栄養素摂取が依存する。家庭内での食事は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが、提供される食事が望ましい食品群摂取や栄養素摂取と関連することが報告されている。そこで本研究では、緊急事態宣言下における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係について検討を行った。くわえて、緊急事態宣言後においても保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係がみられるか、検討を行った。

B. 研究方法

1. 対象世帯・対象者

全国8地域区分（北海道・東北、関東、北

陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から、各区分毎に6～7自治体、計50自治体を実無作為抽出し、さらに、2020年度の住民基本台帳をもとに各自治体から居住する小学5年生の児童あるいは中学2年生の生徒がいる世帯をそれぞれ1500世帯（各自治体30世帯）抽出した。対象者には12月に本人および保護者宛の調査票を送付した。

本研究は保護者が回答した調査票をもとに検討を行うこととし、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルについて、すべてのデータがそろっている1107名について分析対象とした。

2. 分析方法

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルに関する項目は、表1に示す7項目である。調査項目は9項目あり、表1以外の2項目「子どもの成長のために、栄養バランスがとれた食事は重要だ」（態度）、「値段が高いことを理由に、野菜・果物などを買う量を減らすことはある」（態度）は、因子分析の結果、他の項目との関連が弱く除外した結果、残りの7項目は、2項目が知識、2項目が態度、3項目がスキルを表すと解釈できた。

各項目の回答について、全くわからない＝1点、少しわかる＝2点どちらもとも言えない＝3点、だいたいわかる＝4点、よくわかる

＝5点として、各項目の回答を点数化し、7項目分の点数を合計したものを、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが良好かどうかの判断に用い、高得点であるほど良好であると判定した。7項目分の点数の合計を四分位にし（表2）、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感との関係を分析した。解析には、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。くわえて、児童・生徒の食事摂取状況について、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合を、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に、に検討した。解析は、ポアソン回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究の依頼文書では、調査目的に加え、研究への協力は自由意思であること、断った場合や途中で辞退する場合も不利益がないこと、公表結果はすべて個人が特定されないことを明記した。本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会（承認番号：2020-168）および新潟県立大学倫理審査委員会の承認（承認番号：2025）を得て実施した。

C. 研究結果

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に見た対象者の特性を表3に示す。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別

の低い群は高い群と比較して、世帯年収が低く、緊急事態宣言後の暮らし向きが以前より苦しくなる者の割合が高く、両親の学歴が低い傾向にあった。

表4に、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況を示す。緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、乳製品（牛乳、ヨーグルト、チーズなど）・肉・魚・卵・野菜・果物について、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合を検討したところ、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点いずれの分位においても、緊急事態宣言前と比較して、緊急事態宣言下では、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と大きな差は見られないことが明らかとなった。

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと生徒の家庭における、1年前と比較した、緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感の関係を、表5に示す。1年前より食事を作る時間の余裕が少なくなった家庭は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計点数が最も高い群（Q1）と比較して、より低い合計点数の群であるQ3、Q4で有意に多く、食事を作る時間の余裕が増えた家庭は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計点数が最も高い群（Q1）と比較して、より低い合計点数の群であるQ3、Q4で有意に少ないことが明らかとなった。1年前より心の余裕が少なくな

った家庭は、Q1と比較してQ3およびQ4で有意に多く、1年前より心の余裕が増えた家庭は、Q1と比較してQ2、Q3、およびQ4で有意に少なかった。さらに、1年前より食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった家庭は、Q1と比較して、Q3、およびQ4で有意に多かった。

表6に、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合を示す。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点いずれの分位においても、緊急事態宣言下では、緊急事態宣言前と比較して、1日2回以上摂取できている割合が有意に少なかった。そして、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と有意差が見られないことが明らかとなった。ただし、所得の各分位において上記の割合を図示すると（図1）、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、Q3とQ4における割合が少ないことが明らかとなった。

D. 考察

本研究より、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況にかかわらず、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果

物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合は、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で各食品群を1日2回以上摂取出来ている状況に戻る事が明らかになった。これは、学校給食が所得の違いを超えて、子どもの望ましい食事摂取に寄与する重要な食事及びシステムであることを、これまでの研究と同様支持するものである。そして、緊急事態宣言下では、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが良好であっても、給食が実施されないためにその保障から外れた状況にあったことを示すものといえる。

そして、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点の低い群では、高得点の群と比較して、緊急事態宣言後は、その1年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。これは、新型コロナ流行下における、暮らし向きの悪化にも留意する必要があるが、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している場合に、家庭内での子どもの成長に望ましい栄養摂取状況を満たす食事の準備が難しくなりがちであることを示唆するものである。

さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に

戻ることが明らかになった。ただし、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、最も保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群（Q4）と次に合計得点が少ない群（Q3）における割合が少ないことが明らかとなった。これは、緊急事態宣言下における給食の中止が、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している児童・生徒が、主菜に相当する肉・魚・卵と、副菜に相当する野菜の両者を組み合わせた食事の摂取を難しくしたことを示すものである。そして、緊急事態宣言後において、主菜と副菜を組み合わせた食事摂取がより高率に可能となったが、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している児童・生徒のほうが、主菜と副菜を組み合わせた食事摂取の割合は低い状態が緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後を通して継続したことを示すものである。

児童・生徒の食事摂取状況は、世帯の社会経済状態による差が見られるものの、緊急事態宣言下から宣言後にかけて、緊急事態宣言前と同様の状況に戻った。しかし、新型コロナは、現在も流行中で、収束への道のりはまだまだ課題が多い状況である。新型コロナ流行下という、これまでの生活と異なる中で、児童・生徒が家庭内で望ましい食事摂取をし、健全な心身の発達につなげるためにも、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルをより望ましいものにしていく

ための環境整備や情報の発信、教育が求められる。

E. 結論

新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い群では、高得点群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なく、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点に関わらず、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群で割合が少ないことが明らかとなった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

表1. 10～14歳の児童・生徒における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキル										
	全くわからない		少しわかる		どちらとも言えない		だいたいわかる		よくわかる	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
5 つ以上の生の食材を用いて、子どもの食事を一食分作ることは、難しい (スキル)	219	19.7%	282	25.4%	157	14.1%	280	25.2%	173	15.6%
子どものために、栄養バランスがとれた食事を作ることは、難しい (スキル)	155	14.0%	329	29.6%	162	14.6%	318	28.6%	146	13.1%
子どものために、主食・主菜・副菜がそろった食事を用意することは、惣菜を利用して難しい (スキル)	45	4.1%	129	11.6%	184	16.6%	462	41.6%	290	26.1%
栄養バランスがとれた食事とはどのような食事か、わかる (知識)	9	0.8%	227	20.4%	66	5.9%	550	49.5%	259	23.3%
主食、主菜、副菜とは、それぞれのどのような料理か、わかる (知識)	12	1.1%	189	17.0%	31	2.8%	529	47.6%	349	31.4%
子どもの食事について、主食・主菜・副菜をそろえて食べさせようと思う (態度)	12	1.1%	77	6.9%	173	15.6%	611	55.0%	238	21.4%
子どもの食事の準備をする際は、その前後の食事で何を食べたか、あるいは食べる予定かを考慮している (態度)	81	7.3%	170	15.3%	245	22.1%	435	39.2%	179	16.1%

表2. 10～14歳の児童・生徒における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況				
保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点				
	点	N	%	
Q1	30 点以上	230	20.8	
Q2	26-29 点	279	25.2	
Q3	22-25 点	273	24.7	
Q4	21 点以下	325	29.4	
合計		1107	100.0	

表3. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒における家庭状況の関係

		保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点				p †
		Q1	Q2	Q3	Q4	
		30 点以上	26-29 点	22-25 点	21 点以下	
		N=230	N=279	N=273	N=325	
		%	%	%	%	
性	男子	49.6%	47.3%	49.1%	52.0%	0.714
	女子	50.4%	52.7%	50.9%	48.0%	
世帯員数	2 人	4.8%	6.8%	6.2%	7.7%	0.446
	3 人	17.0%	11.1%	16.8%	13.5%	
	4 人	40.4%	46.6%	39.2%	39.1%	
	5 人	27.8%	24.7%	24.5%	24.0%	
	6 人	6.1%	7.9%	8.8%	10.8%	
	7 人以上	3.9%	2.9%	4.4%	4.9%	
世帯年収	100 万円未満	0.9%	0.4%	1.5%	1.5%	< 0.001
	100 万円以上 200 万円未満	3.0%	2.9%	3.3%	7.4%	
	200 万円以上 300 万円未満	2.6%	6.5%	8.1%	7.1%	
	300 万円以上 400 万円未満	7.4%	8.2%	8.1%	13.2%	
	400 万円以上 500 万円未満	10.9%	10.0%	17.6%	17.5%	
	500 万円以上 600 万円未満	12.6%	10.4%	15.8%	15.4%	
	600 万円以上 700 万円未満	8.3%	12.5%	10.6%	16.3%	
	700 万円以上 800 万円未満	12.6%	15.1%	9.9%	8.6%	
	800 万円以上 1000 万円未満	20.4%	13.6%	15.0%	6.8%	
	1000 万円以上	21.3%	20.4%	10.3%	6.2%	
緊急事態宣言後の暮らし向き	今のほうが苦しい	19.6%	20.4%	27.1%	36.6%	< 0.001
	変わらない	76.5%	74.2%	65.6%	57.2%	
	今のほうが楽	3.0%	5.4%	5.9%	3.1%	
	わからない・答えたくない	0.9%	0.0%	1.5%	3.1%	
母親の学歴	中学校	3.0%	1.4%	1.1%	5.5%	< 0.001
	高等学校	19.6%	23.7%	26.7%	35.7%	
	専門学校	17.0%	18.3%	27.5%	22.8%	
	短期大学	24.3%	25.4%	24.2%	18.8%	
	大学・大学院	36.1%	30.8%	20.1%	15.7%	
	母親はいない・わからない・答えたくない	0.0%	0.4%	0.4%	1.5%	
父親の学歴	中学校	4.3%	4.7%	3.3%	7.4%	< 0.001
	高等学校	24.8%	28.3%	37.0%	34.2%	
	専門学校	12.2%	14.0%	14.3%	16.0%	
	短期大学	0.9%	2.2%	2.9%	2.5%	
	大学・大学院	53.9%	47.0%	36.6%	31.1%	
	母親はいない・わからない・答えたくない	3.9%	3.9%	5.9%	8.9%	
児童・生徒の身体状況		Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	p for trend ‡
身長 (cm)		151.6±11.7	150.1±10.5	150.9±11.3	150.0±11.1	0.222
体重 (kg)		43.0±10.7	42.8±10.6	42.5±10.5	43.0±11.3	0.911
BMI (kg/m ²)		18.5±2.8	18.8±3.6	18.5±2.6	18.9±3.2	0.400

†χ² 二乗検定を用いた。

‡一元配置分散分析を用いた。

表4. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況との関係

		保護者の食事 準備に対する 知識・態度・スキ ルの合計得点	緊急事態宣言前 %	緊急事態宣言下 %	緊急事態宣言後 %	p
1日2回以上、以下の食品群を摂取している						
乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)	Q1	30点以上	80.0%	53.9%	81.7%	<0.001
	Q2	26-29点	80.6%	48.0%	81.4%	<0.001
	Q3	22-25点	73.3%	42.5%	76.6%	<0.001
	Q4	21点以下	66.8%	35.7%	70.2%	<0.001
肉、魚、卵	Q1	30点以上	99.1%	90.4%	99.6%	<0.001
	Q2	26-29点	97.8%	88.9%	99.3%	<0.001
	Q3	22-25点	94.9%	78.4%	96.7%	<0.001
	Q4	21点以下	92.3%	68.6%	92.9%	<0.001
野菜	Q1	30点以上	99.1%	91.7%	98.7%	<0.001
	Q2	26-29点	97.8%	89.2%	98.6%	<0.001
	Q3	22-25点	87.5%	65.6%	90.5%	<0.001
	Q4	21点以下	81.2%	56.9%	83.1%	<0.001
果物	Q1	30点以上	45.7%	19.1%	50.9%	<0.001
	Q2	26-29点	39.1%	16.1%	43.4%	<0.001
	Q3	22-25点	28.6%	8.4%	32.6%	<0.001
	Q4	21点以下	29.8%	11.4%	34.2%	<0.001
いずれも、毎日食べていない	Q1	30点以上	0.4%	3.5%	0.4%	<0.001
	Q2	26-29点	0.0%	3.6%	0.0%	<0.001
	Q3	22-25点	3.7%	14.3%	1.8%	<0.001
	Q4	21点以下	4.3%	20.6%	4.0%	<0.001

χ^2 二乗検定を用いた。

表5. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、1年前と比較した緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感の関係

	保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点						
	Q1	Q2	p (vs. Q1)	Q3	p (vs. Q1)	Q4	p (vs. Q1)
	30点以上	26-29点		22-25点		21点以下	
	N=230	N=279		N=273		N=325	
	%	%		%		%	
食事を作る時間の余裕が少なくなった	9.1%	9.0%	0.949	17.9%	0.010	21.2%	0.001
食事を作る時間の余裕が増えた	19.1%	13.3%	0.100	11.7%	0.035	10.8%	0.011
食事を作る心の余裕が少なくなった	9.6%	11.5%	0.512	18.7%	0.009	21.5%	0.001
食事を作る心の余裕が増えた	16.1%	9.3%	0.033	6.6%	0.002	5.8%	<0.001
食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった	7.0%	12.2%	0.064	18.7%	0.001	20.6%	<0.001
いずれもあてはまらない	61.7%	62.4%	0.929	51.3%	0.119	47.7%	0.026

p 値はポワソン回帰分析により算出した。

表6. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合

	保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点	緊急事態宣言前	緊急事態宣言下	p	緊急事態宣言後	p
		%	%	(vs. 緊急事態宣言前)	%	(vs. 緊急事態宣言前)
Q1	30 点以上	98.7%	86.5%	<0.001	98.7%	1.000
Q2	26-29 点	96.8%	84.2%	<0.001	97.8%	0.609
Q3	22-25 点	86.8%	61.9%	<0.001	89.7%	0.373
Q4	21 点以下	78.8%	52.0%	<0.001	81.2%	0.471

p 値はボワソン回帰分析により算出した。

表1. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点を四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合（表6を図示したもの）

